

食生活と衣生活における女性の消費実態と意識(オ2報)衣生活について
 大争前女子短大 ○笹山益子 青海邦子 中野武乃 西川宇也 樋口英子
 香月文子 河野昭子

目的 オ1報に引き続き、衣生活の調査を行ない、消費実態を把握し、志向別に食生活と衣生活に対する消費意識の関連性について比較検討した。

方法 調査対象者は、オ1報の調査の場合と同様である。衣生活については、消費実態と意識を主に調査し(衣服に対する欲望の段階、流行・アクセサリーに対する態度、衣服の入手方法、和服の着用度、衣服の使用中止の理由、衣服の繊維、洗たく状況などについて)、その中から各志向別に関連している項目を取り上げて、食と衣の志向別クロス集計を行なった。

結果 衣生活に対する態度は、主婦グループ、学生ともにかなり堅実であり、学生の方がよりファッションナブルであった。また、「食と衣の製作する時の意識」をはじめ、ファッション志向、節約志向、簡便志向、高級志向、健康志向において、食生活と衣生活の消費意識に関連性がみられた。